行雲流水

No.105 ②令和3年10月4日発行

貴重な「1」を生み出す工夫

校長 寒河江 正人

10月1日（金）、ようやく「**承認の決裁**」が下りた。

「**3年生の研修旅行**」の実施に向けて、1ヶ月以上、「**水面下での対応・調整**」に難渋した。

「**東根市小中学校管理規則（第5条）**」並びに「**同処務規定（第30条）**」に基づいて、「**実施計画に係る承認申請**」が必要なのである。

それが、8月24日付で東根市教育委員会から発出された通知「**小学校、中学校における新型コロナウイルス感染症に関する対応について**」ですべてが頓挫した。

「**県の注意・警戒レベル4以上の市町村への社会科見学、修学旅行等は、延期・変更すること**」と通達されたからである。

皆さんもご承知のとおり、いまだ本県は、全域「**注意警戒レベル4**」。

したがって、「従来の実施計画」では「**承認の決裁**」が下りないのである。

昨日10月3日（日）も、県内の感染者は**2人**。近隣市町で確認されている。

そこで、「**貸切**」「**屋外**」「**換気・密を回避**」の徹底を「**実施計画の柱**」に据えた。

もちろん感染リスクを軽減するため、「**泊を伴わない**」措置をとった。

そして、ようやく「**承認の決裁が下りた**」というわけである。

3年生の生徒諸君には、「**制限の中での実施**」だが、「**いい思い出**」をつくって欲しい。

一方、「**文化発表会**」の**準備・開催の方法等**について、慎重に検討を重ねている。

「合唱」という活動自体が、感染リスクを増大させかねないものである。

市内の中学校5校の内、3校がとりやめた。

「**いつ、だれにでも、どこにでも、感染クラスターは起こり得る**」ということを踏まえて、実施計画を練り直すために、多くの教職員が共に考え、知恵を絞っていただいている。

従来の実施方法とは大きく異なるだろうが、開催当日に向かう過程も、開催当日の運営も、「**感染クラスターを発生させない**」ための工夫が凝らされなければならない。

「**ウイズコロナの教育課程**」を編成する上で大切なことは、

「**従来の方法や既成概念に縛られない、拘泥しない。**」ということ、

そして、「**より安心・安全に実施するために、貴重な「1」を生み出す工夫**」である。